

たけうち ひでき
竹内 秀希 (生命環境学群 地球学類 4年)



はじめ

この写真コンテスト企画が始まるきっかけは、先輩の思い付きでした。もともと写真を趣味としていた私には、「こんな企画があれば写真を出したい」そう思うばかりでした。しかし、私がこう思うように「こんな企画があったらいいな」と思っている人はいるんじゃないか、じゃあ自分で企画しちゃおう！と企画を始めることにしました。

コンテストの企画作り

この写真コンテストは「筑波大学生の日常や視点の多様性とその発信・共有」をテーマとし、企画を作り上げていきました。筑波大学には多くの学生が集まり、広大なキャンパスで過ごしています。日常生活の中で、それぞれが見て感じる筑波大学は同じなのか、違うのか。自分たちの日常や視点を写真という作品にして見せ合う機会にしたいと考えました。

運営メンバーを集め、本格的に企画作りが始まりました。コンテストは、カメラで撮影した作品が対象の自由写真部門と人物写真部門、スマホで撮影した作品を対象とするスマホ写真部門を設けました。より多くの学生にこの企画に参加してほしいと考え、スマホの部門も設けました。

審査員には本学出身の写真家、青山裕企さんをはじめ永田学長や芸術系の先生や写真部など多くの方々々に依頼しました。中でも、写真家の青山裕企さんへの依頼はダメ元でした。依頼のメールを送って約5分、青山さんから快諾のお返事。嬉しく思うと同時に、この企画を必ず成功させようと身の引き締まる思いでした。

そして、この企画の最終目標を写真展の開催に定め、同時に青山さんのトークイベントも行うことにしました。

作品の募集

ポスターを掲示し、SNSを利用した広報活動も始め、いよいよ作品の募集を始めました。

募集期間の初めはある程度応募があったものの、途中2ヶ月間の応募はほぼなく、企画の続行も危ぶまれるほどでした。手ごたえのない中、SNSでの呼びかけや学内でのビラ配りで、企画の広報を続けました。その甲斐あってか多くの作品が届き、最終的には全部で100近い作品の応募がありました。

賞の選考と写真展の準備

写真家の青山さん、永田学長をはじめとした審査員の方々が選ぶ賞の選考には予定よりも時間がかかり、写真展の準備に至るまでに大きな遅れがでてしまいました。

このコンテストのテーマ「筑波大学生の日常や視点の多様性とその発信・共有」に合わせて、写真展では応募作品をすべて展示することにこだわりました。何度も話し合いを重ね、展示方法や配置などを決めていきました。スケジュール的には予定通りとは全く言えませんでした。

写真展と写真家・青山裕企トークイベント

企画の着想から約8ヶ月、写真展を無事開催することができました。大学会館総合交流会館の広い空間に、応募された全作品が並べられました。展示作業が終わった時はまだ達成感もなく、無事に終わられるかの不安ばかりでした。

写真展初日、本学出身で写真家の青山裕企さんのトークイベントを迎えました。平日夕方の開催にも関わらず、会場には50人を超える来場者。トークイベントを終え、青山さんのサイン会には長蛇の列、展示を見る多くの来場者。達成感がこみ上げ、運営メンバー一同ようやく安心できました。

5日間の写真展で多くの来場者があり、友人・知人からは良い反響も多くありました。短い期間でしたが、十分な手ごたえを感じることができました。



トークイベントの様子



写真家 青山裕企さん

最後に

この企画では、思い思いの作品を集め、展示することができました。私1人から始まったこの企画がここまでできたのも、T-ACTやパートナーの村上先生をはじめ多くの学内の方々、そして写真家の青山裕企さん、何より運営メンバーの協力があってこそでした。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

また、学生発信の思いきりのある活動がT-ACTを中心に企画されていくことを願っています。



写真展の展示